

第1回 県道長井古座線 八郎山トンネル技術検討委員会

議事要旨

1. 日時：令和5年9月8日（金）13：00～14：30

2. 場所：和歌山県水産試験場 2F 学習ホール

3. 委員：（敬称略、出席者のみ）

- ・大西 有三（京都大学）：委員長
- ・砂金 伸治（東京都立大学）：委員（WEB）
- ・日下 敦（国立研究開発法人 土木研究所）：委員
- ・中本 純次（和歌山工業高等専門学校）：委員

4. 議事要旨

- ・事務局よりトンネルの概要及び調査状況の説明を行った。
- ・補修対策の検討にも影響するため、改めてトンネル内の測量を行い、覆工厚や内空幅等を計測し、設計値と合致するかどうか、また、トンネルの位置を確認することとなった。また、合致しない場合はその要因を考察することとなった。
- ・掘削断面が確保されており、かつ吹付厚等、一次支保の仕様が設計を満足しているかどうか、現在残っている施工時の記録の内容と併せて確認し、整理することとなった。
- ・設計より実際の現場の地山が悪い可能性があり、パターンを変更した箇所や縫い返しを行った場合はその箇所、また、変状を生じた箇所について、調査を行った結果に反映し整理することとなった。
- ・測量を間違えたと判断される場合、掘削時の素掘の状況で間違っているのか、セントルのセット等の時点で間違っているのか、または、覆工を打設する前の掘削断面が小さいのか等について確認することとなった。
- ・吹付け面の掘削量が少なく、最終的な内空断面が合致していれば、結果的に吹付けコンクリート厚が薄い可能性があるため、所定の厚さが確保されているかについても確認することとなった。
- ・調査中の地中レーダー探査、測量、今回指摘のあった吹付けコンクリートの厚さなどについてとりまとめ、第2回検討委員会で報告することとなった。
- ・次回の技術検討委員会の開催について、事務局より各委員に連絡する。